

Ⅳ-158

瀬戸大橋に関する住民意識調査結果の分析

国立環境研究所社会環境システム部 正会員 須賀伸介
同上 正会員 大井 紘

1、はじめに

著者らは、1993年2月～3月にかけて東京湾横断道路についての住民意識調査を行い、海域での大規模開発に対する住民の関心事を調べた。その結果を参考にして調査票を作成し、1996年9月に瀬戸大橋についての意識調査を橋の接岸地の近くに居住している住民に対して行った。ここに、調査の分析結果の一部を報告する。特に、瀬戸大橋に対する便利さの意識、地域に関連した関心事、料金の問題について考える。

2、調査の概要

(1)調査地域

調査地域は香川県坂出市と岡山県倉敷市児島地区内の次の3地域である。①:坂出市のJR予讃線より瀬戸内海側で瀬戸中央道以東の地域、②:児島地区内で瀬戸内海に面した下津井地区、③:児島地区内のJR瀬戸大橋線児島駅以南で瀬戸大橋線と瀬戸中央道に囲まれた地域。以後、①、②、③をそれぞれ坂出、児島1、児島2と呼ぶ。坂出と児島2は繁華街と住宅地からなり、児島1は漁業を中心とした都市化されていない地域である。

(2)設問内容

調査票の設問内容は、Ⅰ:回答者の属性と瀬戸大橋の利用状況、Ⅱ:現在の瀬戸大橋について、Ⅲ:開通前の印象、Ⅳ:瀬戸内海の自由連想の4つに大別される(ⅢとⅣは本稿では扱わない)。Ⅱの設問内容を以下に簡単に示す。まず、次の10項目(実際の質問に用いた表現とはやや異なる)について4段階評価、すなわち、肯定(評価1)、どちらかと言えば肯定(同2)、どちらかと言えば否定(同3)、否定(同4)、によって回答を求めた。

- a1:橋を身近に感じる a2:地域に貢献している
a3:他都市等の接近 a4:周辺道路整備が良い
a5:道路料金が低い a6:JRの料金が低い

a7:沿道環境の悪化 a8:海の汚れの原因である

a9:海の眺めが良い a10:自然と調和している

次に瀬戸大橋の便利さを自分にとって、多くの人の人にとって、という観点から尋ね、以下の項目から4者択一で回答してもらった。

b1:便利(自分及び多くの人) b2:便利(多くの人の

b3:便利(自分だけ) b4:便利ではない

さらに、自由記述式による以下の設問を設けた。

c:どこに便利さを感じているか

d:現在の瀬戸大橋に対する感想及び意見

(3)調査票の発送と回収

調査対象者は上述した地域の住宅地図から系統的抽出法によって選び、調査票の発送及び回収は郵送によった。調査地域ごとの発送数は坂出が500、児島地区の2地域がともに350である。発送数に対する有効回収率は坂出、児島1、児島2でそれぞれ、55.0%、46.9%、54.3%であった。

(4)回答者の属性

各地域の回答者の属性を簡単に述べる。年令は3地域とも40歳～60歳代が中心(各地域で66%～72%)である。居住年数では各地域とも40年以上が6割以上(同62%～68%)、性別では男性の割合の方が高い(同65%～70%)。職業では給与所得者(会社員と公務員)が最も多く、児島2で49%、坂出と児島1ではそれぞれ32%、30%である。坂出では無職の割合が他の地域より約9%高く25%、児島1では漁業が16%(坂出では1人、児島2で0人)である。

3、結果

(1)選択肢回答に関する結果

4段階評価の集計を調査地域ごとに行った結果、各設問において、最も多くの回答者によって選択された評価値(1～4)は3地域で一致した(表1)。

便利さに関する選択肢の回答分布を(選択した回答者の%値)を表2に示す。ほとんどの回答者

キーワード: 瀬戸大橋、住民意識調査、4段階評価、自由記述、瀬戸大橋の便利さの意識

連絡先(〒305 つくば市小野川16-2 TEL 0298-50-2456 FAX 0298-50-2572 Email sugas@nies.go.jp)

表1 3地域で最も多く選択された評価値

◎(評価1), ○(同2), △(同3), ▲(同4)

設問(ai)	i = 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
評 価		○	○	◎	◎	◎	△	△	▲	◎

表2 便利さの選択肢回答の分布(%)

地域	b 1	b 2	b 3	b 4
坂出	82.9	13.9	0.0	0.7
児島1	64.5	28.5	4.0	0.6
児島2	77.8	17.5	0.9	0.5

表3 各地域の4段階評価の回答分布(%)

設問	回答者群	評価			
		1	2	3	4
a2	B 1	34~44	40~47	12~14	5~9
	B 2	8~24	25~41	30~38	5~20
a6	B 1	7~10	19~22	44~46	24~26
	B 2	8~13	35~40	39~49	5~10
a7	B 1	6~10	18~27	33~40	31~34
	B 2	5~11	31~35	41~50	10~20

表4 自由記述の内容と記述率(坂出, 児島1)

坂出と児島1に共通(便利さに関連)
時間短縮(54, 43) ~が近い・身近(17, 16)
高速化(9, 12) 天候に左右されない(11, 9)
いつでも利用可能(9, 16) JRの利便(9, 20)
坂出と児島1に共通(その他)
料金問題(26, 28) 観光(13, 18) 岡山(24, 17)
レジャー(6, 11) 交通問題(8, 13)
坂出の特徴
日帰り可能(9, 3) 乗り換えなし(9, 2)
物流の向上(9, 3) 行動範囲の拡大(5, 2)
交流(6, 2) 本州(27, 5) 大阪(9, 0)
京阪神(5, 1) 東京(5, 0) 通過地点(14, 3)
児島1の特徴
緊急時の利用(4, 7) 四国(9, 69) 騒音(3, 18)

が瀬戸大橋に対して何らかの意味で便利さを認めていることが分かるが、児島1では、自分にとっては便利と思っていない回答者(b2を選択)の割合が他の地域よりも高いことが特徴的である。

表3に4段階評価項目の中の3項目に対する回答分布を回答者群B1(便利さの選択肢でb1を選択した回答者)、B2(同b2)に分けて示す。表3より、例えば回答者群B1において、項目a2に対して評価1を選択した回答者の割合は3地域で34%~44%であることがわかる。下線を記した数値から回答者群の間の4段階評価の違いが分かる。設問a2の数値を見ると、各地域のB2ではB1より、瀬戸大橋の地域への貢献に対して評価1の回答者の割合が減

り、評価3の回答者の割合が増加している。またB2ではB1より、JR料金(a6)について、どちらかと言えば高いと答えた人の割合が増え、沿道環境の悪化(a7)に否定的な人の割合が減っている。

(2)自由記述回答の結果

前述した自由記述形式の設問cとdの回答について、坂出と児島1の結果を述べる。表4に、坂出と児島1の2つの設問の回答全体の中の主な記述内容と記述率(坂出、児島1の順)を示した。記述率は、設問cとdのどちらか一方に回答した回答者数(坂出:261人、児島1:149人)に対する各内容を記述した回答者数の割合の%値とした。2つの地域に共通の利便性についての記述内容では、時間短縮の記述率が非常に高い。回答原文から時間短縮~いつでも利用可能までの5つの内容は、瀬戸内海を船で横断する場合と比べたときの瀬戸大橋の利便さから記述されていることがわかる。児島1ではJRの利便の記述率が坂出よりも高い。児島地区へのJR瀬戸大橋線及び児島駅の設置、運賃の安さなどの記述がこの地域での特徴である。坂出では児島1よりも利便性について多様な記述内容が見出されている。

利便さ以外の内容で記述率が高いのは料金問題(すべて道路通行料金の高さを指摘)である。その内容をさらに細かく見ると、“料金が高いので気軽に利用できない”または“安ければ利用者が増加する”という内容の記述率が坂出で14%、児島1で8%であった。2つの地域でのこの記述率の違いも特徴的である。地名の記述についても地域的な特徴が見られる。坂出では本州、児島1では四国の記述率が高い。岡山は2地域に共通している。

坂出では通過地点が特徴的である。具体的には、瀬戸大橋の利用者が坂出に滞在せずに通過してしまうという現状、瀬戸大橋が地元に貢献しているとは言えないこと等が述べられている。また、4段階評価の設問a2では肯定的な評価の回答者も、自由記述回答では上記のような回答をする場合が見出されている。児島1では騒音の記述率が高く、しかも回答者群B2(便利さの選択肢でb2を選択)の記述率(28%)がB1のそれ(13%)を大きく上回った。この地域の利便さの意識を特徴づける要素の一つが騒音問題への関心であることが示唆される。

参考文献:須賀ら, 本学会予稿集IV, 860-861, 1995.